

9 廃棄物

施設の稼働に伴い、新工場等から灰や鉄・アルミなどが発生しますが灰についてはエコセメント化、金属類についてはリサイクル施設への搬入を行い、再資源化をはかることで環境保全目標を達成します。

10 温室効果ガス

施設の稼働にあたっては、ごみ発電、ガスコジェネレーション発電等による温室効果ガスの排出抑制措置を講じるため、施設の稼働に伴う温室効果ガスの排出量は、現施設と比較すると12%削減され、さらに発電による削減量を踏まえると39%の削減になると予測され、環境保全目標を満足できると予測としています。

11 地域社会(ごみ収集車両の走行による影響)

◇交通渋滞
現状の交通需要率を調査しました。各交差点で渋滞が発生する数値を下回っており、交通混雑において環境保全目標を満足しています。
新施設稼働後も現況のごみ収集エリア及びごみ収集ルート、ごみ収集車両台数などは変わらないため、引き続き環境保全目標を維持します。

◇交通安全

走行ルート上は歩道が設置され、歩車分離が図られていますが、交通事故の発生現場もあるため、ごみ収集車両の走行に当たっては、今後も安全運転に十分留意し、交通安全を推進します。

12 緑の量・質

緑の量については、地上部、屋上、接道部ともに、東京都及び武蔵野市が定める緑化基準を上回る緑地を確保し、環境保全目標を達成します。
緑の質については、既存樹木の保全を原則とし、やむを得ず伐採する樹木については、代替となる樹種を植栽し、現状と同等以上の緑の質を維持・確保します。



調査結果の概要(工事の影響)

大気汚染、騒音、振動、廃棄物、地域社会(工事車両の走行による交通渋滞・交通安全)、テレビ電波障害について予測調査を実施し、いずれも環境保全目標を達成しています。詳細の施工方法の検討にあたっては、これらの目標を達成するだけでなく、周辺環境に十分配慮していきます。なお、工事については、施工業者が決定し施工方法などが具体化された後にあらためて検証や工事説明会を開催します。

「生活環境影響調査書」の縦覧

詳しい調査の結果は「生活環境影響調査書」をご覧ください。

縦覧場所: 武蔵野クリーンセンター
市役所西棟2階環境政策課
縦覧期間: 12月4日(火)~1月4日(金)

市ホームページで、概要版を公開しています。

URL
http://www.city.musashino.lg.jp/gomi_kankyou_eisei/clean_center/index.html

ご意見を募集します

生活環境影響調査に関するご意見を募集します。いただいたご意見につきましては後日ホームページなどで見解を公表いたしますが、個別の回答は行いませんので、あらかじめご了承ください。いただいたご意見を踏まえ、今後施設の具体的な検討をすすめていきます。

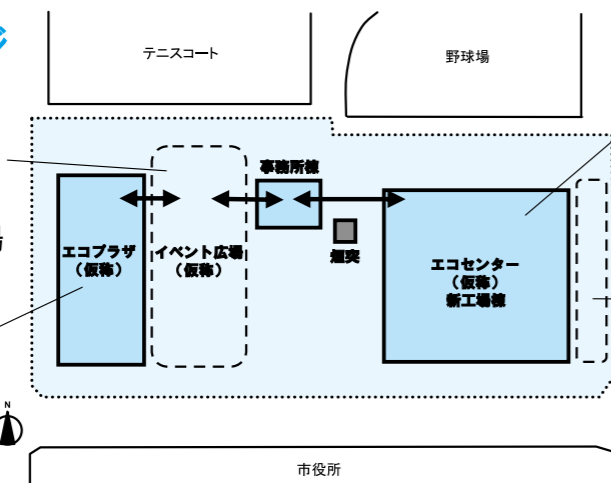
募集期間 12月4日(火)~1月18日(金) 当日消印有効
提出方法 住所、氏名を明記の上以下のいずれかの方法で提出してください。

- ① クリーンセンターへ持参
- ② 郵送(〒180-0012 緑町3-1-5クリーンセンター宛)
- ③ ファックス 0422-51-9194
- ④ Eメール CNT-CLEAN@city.musashino.lg.jp

(参考)新施設のイメージ

○イベント広場
平成31年度開設予定
フリーマーケットの開催などイベントができる芝生の広場

○エコプラザ(仮称)
平成31年度開設予定
現施設の事務所棟を再利用し、環境啓発施設にリニューアル。



○エコセンター(仮称)新工場棟
平成29年度稼働予定
清掃工場
エネルギー供給施設
見学コース

○コミュニティスペース
オープンな歩行空間・プラトホームがのぞける窓

新武蔵野クリーンセンター(仮称) 生活環境影響調査書 説明会のお知らせ

新武蔵野クリーンセンター建設について

現クリーンセンターは昭和59年に建設され、稼働から28年が経過しました。設備の耐用年数などの状況から更新が必要となっているため、平成26年から28年にかけて、新武蔵野クリーンセンター(仮称)の建設を進め、平成29年の稼働を目指しています。

これまで、周辺にお住まいの方々と有識者、市により構成される新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会などで新施設の計画について話し合いが進められています。

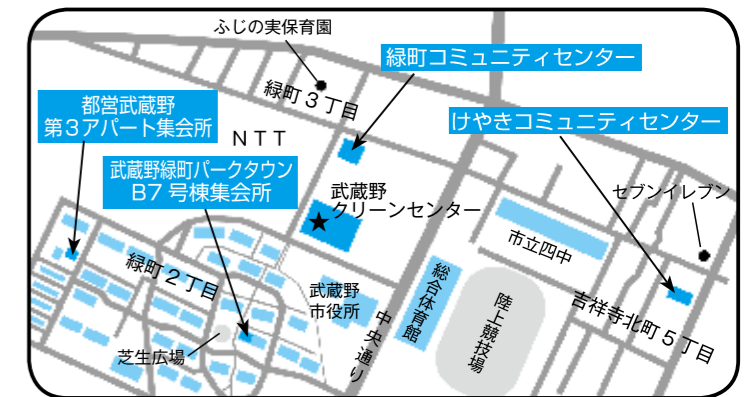
この度、新クリーンセンター建設計画が周辺の生活環境に与える影響を調査しましたので、その結果を公表するとともに説明会を開催します。

説明会の日程

- ① 都営武蔵野第3アパート集会所
12月8日(土曜日)午後1時30分~
- ② 緑町コミュニティセンター
12月9日(日曜日)午後2時~
- ③ けやきコミュニティセンター
12月11日(火曜日)午後7時~
- ④ 武蔵野緑町パークタウンB7棟集会所
12月15日(土曜日)午前10時~

※各説明会の内容は同じです。ご都合のよい会にお越しください。事前申込みは不要です。

会場案内図

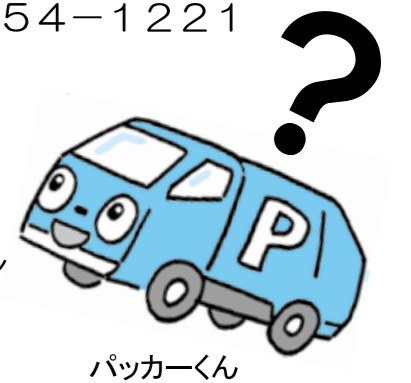


お問合せ

武蔵野市環境部 クリーンセンター
電話 0422-54-1221

生活環境影響調査ってなに?

廃棄物処理法に基づいて実施する調査で、施設が周辺地域の生活環境に及ぼす影響を建設の前に予め調査するものです。この結果を踏まえ、地域の生活環境に配慮した対策を検討した上で、施設の具体的な計画をつくりあげていきます。



どんなことを調査するの?

『施設の運転』『ごみの搬出入』『ごみの保管』に伴う大気汚染・騒音・振動・悪臭(法律で調査をしなければいけない項目)に加えて、低周波音・地盤・水循環・日影・景観・廃棄物・温室効果ガス・地域社会・緑の量と質についても調査を行いました。更に、工事中についても周辺の生活環境への影響を軽減するため、工事中の影響についても調査を行っています。調査の結果をもとに工事中・建設後の影響を予測します。

新施設の概要

所在地：武蔵野市緑町3-1-5
(現クリーンセンター敷地内)

処理能力：焼却施設・熱回収施設 120t/日
粗大・不燃ごみ処理施設 10t/日

敷地面積：17,000㎡
建築面積：約6,100㎡(予定)
煙突高さ：59m(現施設の煙突を補強し再利用)

排ガス処理装置：集じん装置、乾式有害ガス除去装置、窒素除去装置など

発電能力：約12,700MWh/年(ごみ発電、ガスコジェネレーション、太陽光発電)

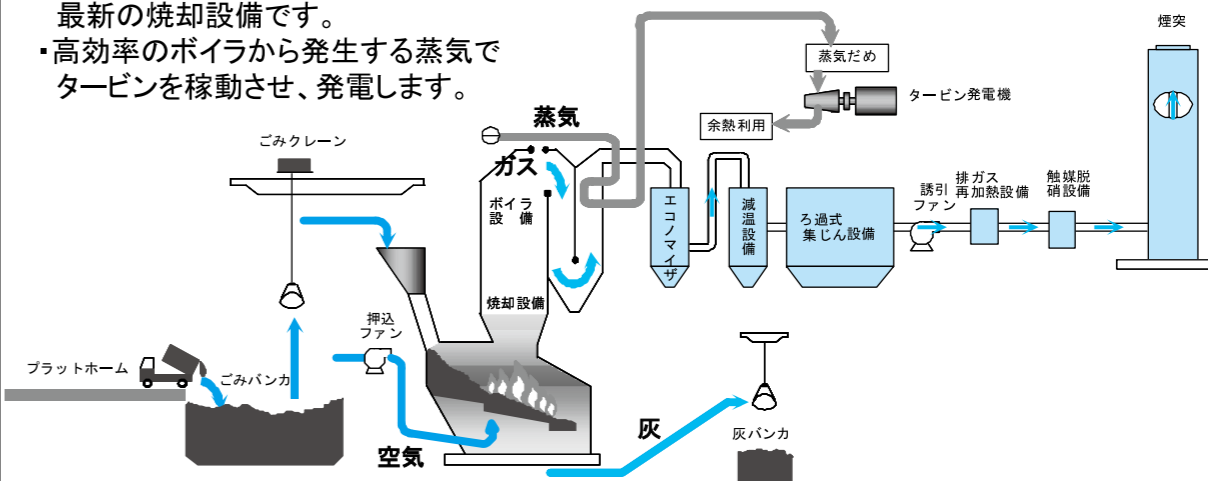
稼働開始日：平成29年4月(予定)
ごみ貯容量：6日分(720t)

所在地



新施設のごみ処理の流れ

・全国で最も厳しい排ガス規制をクリアする最新の焼却設備です。
・高効率のボイラから発生する蒸気でタービンを稼働させ、発電します。



調査結果の概要(供用開始後の影響)

1 大気質

◇ 施設の運転による影響

【主な環境保全対策】
除去装置などによる浄化や適切な運転・管理を行います。

【予測・評価の結果】

新施設では、全国で最も厳しい排ガス規制を行うため大気質の環境保全目標を大きく下回るようになります。

① 長期平均濃度

予測項目	環境保全目標※1	予測値	評価
二酸化硫黄 (ppm)	0.04以下(日平均)	0.003	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.10以下(日平均)	0.048	○
二酸化窒素 (ppm)	0.06以下(日平均)	0.04	○
塩化水素 (ppm)	0.02以下	0.002	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.6以下(年平均)	0.027	○

② 短期高濃度

一般的な気象条件のほか一時的に汚染濃度が濃くなる気象条件においても予測調査を行いました。いずれも環境保全目標を達成しています。

◇ ごみ収集車両の走行による影響

【主な環境保全対策】

指定した走行ルート・規制速度を遵守するとともにアイドリングストップの実施、低公害車の採用などを行い排ガスの低減に努めています。

【調査の結果】

ごみ収集車両が走行するルート上の4地点において、二酸化窒素、浮遊粒子状物質を測定しましたが、いずれも環境保全目標を満足しています。

2 悪臭

◇ 施設の稼働による影響

【主な環境保全対策】

焼却炉の稼働中にはごみピット内の空気を燃焼空気として焼却炉に入れ、臭気成分を焼却により分解して排出、全炉停止時には脱臭装置などによる脱臭を行い、悪臭の軽減に配慮していきます。

【予測・評価の結果】

施設	環境保全目標	臭気指数	評価
煙突	10	10未満	○
可燃ごみピット 排出口		10未満	○
不燃・粗大ごみ 処理施設排出口		10未満	○

◇ プラットホーム^{※2}からの漏洩による影響

【主な環境保全対策】

プラットホームを地下化し悪臭の漏洩を軽減するほか、エアカーテンや電動扉の設置などにより、臭気が外部に漏れないような構造を採用します。

【予測・評価の結果】

予測地点	環境保全目標	臭気指数	評価
プラットホーム入口 付近の敷地境界	10	10未満	○
プラットホーム出口 付近の敷地境界		10未満	○

3 騒音

◇ 施設の稼働による影響

【主な環境保全対策】

音の出る設備機器は極力建物内部に設置し、屋外に設置しなければならない機器については、コンクリートパネルや吸音材による防音対策を行います。

【予測・評価の結果】

施設の稼働による騒音レベルは環境保全目標を満足しています。ただし、元々の騒音レベルが交通車両等の影響により環境保全目標を上回っているため、合成騒音は目標を超えてしまいます。

◇ ごみ収集車両の走行による影響

ごみ収集車両が走行するルート上の4地点において、予測評価を行いました。いずれの地点においても、環境保全目標を満足しています。

4 振動

◇ 施設の稼働による影響

【主な環境保全対策】

振動のおそれのある設備機器(蒸気タービン発電機、粗大・不燃ごみの破砕機など)については、基礎の施工による工夫(エキスパンションジョイントの採用など)、防振ゴムの設置などにより振動対策を実施していきます。

【予測・評価の結果】

時間区分	環境保全目標	振動レベル	評価
昼間	60	49	○
夜間	55	49	○

◇ ごみ収集車両の走行による影響

ごみ収集車両が走行するルート上の4地点において、予測評価を行いました。いずれの地点においても、環境保全目標を満足しています。

5 低周波音

【主な環境保全対策】

低周波音を発生するおそれのある設備機器については極力建物内部に設置し、屋外に設置しなければならない機器については、コンクリートパネルを設置し、適切な維持・管理を行っていきます。

【予測・評価の結果】

敷地境界の最大値出現地点においても、環境保全目標を達成しています。

6 地盤・水循環

【主な環境保全対策】

現地調査により、地下水位が確認されました。本工事では、この水位以深まで掘削するため、周辺地下水位に影響を与えないよう地下水対策を行います。

【予測・評価の結果】

新施設設置に伴う地下水位や地盤の変形は小さいものと予測されています。

7 日影

新工場棟(煙突含む)、新管理棟、エコプラザ(仮称)の3施設による複合日影は、4時間日影線は敷地境界から5m未満、2.5時間日影線は敷地境界から10m未満であり、日影規制等の環境保全目標を満たしています。

8 景観

煙突については、既存の煙突を耐震補強した上で再利用するため、配置及び高さなどに変更はなく、見え方は大きく変化しません。新工場棟については、壁面の印象が単調とならないよう意匠上の工夫を施し、周辺建築物との調和を図っていきます。

【用語解説】

※1 環境保全目標 法的な基準を遵守した上で、さらに各事業者ごとに自主的により厳しい目標を定めるもの。武蔵野クリーンセンターでは、全国で最も厳しい基準と同等の基準を環境保全目標として定めている。

※2 プラットホーム ごみ収集車両がごみをピット(貯留場所)に投入するスペース。

※3 エコセメント 焼却後の灰に従来のセメント原料である石灰石などを混ぜてつくられるセメント。